

「今、辞表を書かないと、君の経歴に傷が付くよ」

2005年4月、電子部品メーカーに就職した井上考史(28)はわずか1カ月後、上司からそう告げられた。度重なる居眠りなどが理由だった。「はい」。力なぐさなくほかなかった。

その症状は、後に睡眠障害と診断される。だが当時は、ただただ自分を憎んだ。「構造改革」が進み、景気が拡大していると言われたが、とてもそんな実感が持てない就職難の中、正社員というレールの入り口を探し続けた。

3社目で、症状に苦しむ考史に社長が言った。「自分をきっちり受け入れた方がいい。病気が治れば戻ってこい」。最初の就職から4年間、ずっとこわばっていた全身から力が抜けた。空き家になった神戸の自宅は「和楽居」という名のシェアハウスにして

つながる場所

バブル(後)世代の幸福論



考史さんが企画したパーティー。住人や友人ら20人以上が集まり、ゲームなどで交流した＝神戸市垂水区(撮影・山崎 竜)

いたが、その住人の一人になることにした。「自分に合った生き方を探してみよう」

「みんなの夢がかなっていい、わりに心から笑える時間がある場所になりたい」。考史はシェアハウスのオーナーとして、のやりがいをつかむ。パーティーなど人を集める仕掛けづくりも楽しい。「正社員時代より収入は少ない。でも、代々心のパラダンスを崩し、会

心から笑う時間がある

人が緩やかにつながり、未来に向けて歩む。考史は、そのための「人間接觸剤」でありたいと言う。「こんな生き方もいいかもしれない」。レールへのこだわりを捨てたわけではないが、今はそう思い始めている。(敬称略)

②レールの外

1980	ボート
1981	ボート
1982	ボート
1983	ボート
1984	ボート
1985	ボート
1986	ボート
1987	ボート
1988	ボート
1989	ボート
1990	ボート
1991	ボート
1992	ボート
1993	ボート
1994	ボート
1995	ボート
1996	ボート
1997	ボート
1998	ボート
1999	ボート
2000	ボート
2001	ボート
2002	ボート
2003	ボート
2004	ボート
2005	ボート
2006	ボート
2007	ボート
2008	ボート
2009	ボート
2010	ボート

高度成長期
バブル経済期
失われた10年
格差社会